

今号のトピックス 1日研修コース川崎市報告 後天性内斜視

**THInet 1日研修コース 川崎市 大成功**

8月5日（月）暑さが厳しい中、川崎市麻生中学校で THInet 1日研修コースを開催しました。川崎市内の養護教諭の先生を中心に25名が参加してくださいました。担当した麻生中学校の古石先生のご尽力のお陰です。当日の会場づくりや受付等も担当していただき、感謝に堪えません。夏休み中の1日の長丁場の研修会にも関わらず、熱心に参加して下さった方々ばかりでした。

今回は日程や予算の都合もあり、大谷が脳・取り組み、ウッドが視聴神経、本間がネット依存と睡眠を担当しました。前回の6月の研修会の内容を引き継ぎ、モデル授業版+解説・深化版として構成しました。また、新たな試みとして、今まで担当していた分野とは違う分野にチャレンジし（ウッドがネット依存のPPづくり、本間が睡眠を担当）、インストラクター自身のスキルアップの向上も目指しました。（ウッドは事情があり、当日のネット依存の講演は担当できませんでしたが、教材づくりは行いました）他分野のことをじっくりと練り上げる時間が十分にとれませんでした。私（本間）自身、大きな学びにつながりました。今後、日本全国のような自治体が研修コースや認定コースを実施した場合、予算の関係上、講師を複数人呼ぶことはできませんので、一人の講師が複数の分野を担当できることが必要とされます。前号の燈火でも記載しましたが、現場の状況を考えると今後、認定コースより研修コースの依頼が増えると予想されます。各自治体の要望に応じていくためにも開発委員会のインストラクターのスキルアップも必要だと感じました。

感想を一部紹介します。

- ・ ネット長時間利用による言語能力の低下という部分がとても気になりました。保健室で感じる気になる子どもの実態と重なりました。まず、自分の体や心の状態を言葉で表現する力が低い。さらには説明のつかない激しい身体症状や理解しがたい問題行動の背景には自分自身の体や心のありようを言語化、心理化できないことが大きく影響しているのではないかと感じました。
- ・ 今日学んだことを子どもや保護者にどう伝えていくかを考える必要性を感じました。短時間で、大切なポイントを絞って、あきさせないように伝える難しさも感じました。とにかく依存症にしないための予防の活動を中心に3ヵ月に一度は子どもにも保護者にも伝える必要がありそうです。
- ・ 今までなんとなく感じたりしていたことが、科学的な内容であきらかにされていることを学べてよかった！生徒や保護者、他の教員へも自信をもって伝えることができるので、今後、すぐに生かしていけると思います。私自身、子育て世代であるため、まず今日から気を付けたいことがたくさんありました。

学校に持ち帰り、「早く実践してみたい」や「自信をもって伝えることができそう」という声が多く、励ましにもなりました。次回は10月の研修会です。すでに20名以上の参加者の申し込みがあります。

（本間）

**伊藤理恵のネットニュース**

**スマホの見過ぎ影響？子どもに急増「後天性内斜視」**（7月20日土曜日配信 テレビ静岡の記事より）

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190720-00010000-sut-l22&p=1>

男子高校生が、ものが2つに見えるのでおかしいと感じて受診したところ急性内斜視（後天性内斜視）と診断された。この高校生は1日に5時間以上スマホのゲームで遊んでいたらしい。親もそれほどの影響があるということを知らず、高校生なので止めなかった、とコメント。この高校生はスマホの使用を控えても完全に治らなかった。将来の夢はパイロットになることで、最終的に手術を受けて内斜視を治すことにした、ということです。

こういった症状は最近高校生や大学生に急増しているようです。大人の場合は斜視を治せば、視力や遠近感が回復するが、子どもの場合は視力が悪くなり、遠近感も永久的に失われてしまう恐れもあるという医師のコメントに、自分で使うもの（スマホだけではなく）に対して、いかに関心を持ち「知る」ことが大切か、と思われられる記事です。

この高校生が、こんな風にももの見える、と書いたイラストが具体的でわかりやすいです。

急性内斜視については、鈴木武敏先生はもちろんですが、2018年10月25日に診療眼科医・若倉雅登さんのブログでも取り上げていて、こちらは韓国での論文も引用されていました。ご参考まで。

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20181022-OYTET50000/>